

教育実習Ⅱ（幼稚園）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 田中 崇 教

I はじめに

本稿は2022（令和4）年度「教育実習Ⅱ（幼稚園）」（以下、本科目）」の指導内容を整理すると同時に省察することによって、授業（教授）改善をめざすことにねらいがある。幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する学生（教育学科幼児教育コース2022年度3年次生42名）を対象とした本科目は、指定の幼稚園で実習を行い、幼稚園教諭に必要な実践力の涵養を目的とする。本科目および教育実習Ⅲ（幼稚園）で使用するテキストは、教育実習の意義を次の5点に集約する。①教育の理論と実践の一体化、②基本的教育技術の習得、③発達期にある幼児の理解、④教育的人間関係における相互作用についての学修、⑤教師としての自覚の高揚

II 実施概要

1. 日程

2021年度より本科目は第6セメスタ（3年次後期）での開講科目になった。今年度はその二年目にあたる。事前指導は2022年度前期および後期に、事後指導（報告会を含む）は2022年度後期に計画した。具体的には、以下に示すとおりであり、すべて計画通りに遂行した。

1-1 事前・事後指導（報告会を含む）

第1回 2022年6月16日（木）14：50-16：20

教育実習に関する基本理解、課題の確認 他

第2回 2022年7月1日（木）14：50-16：20

教育実習に関する理解深化、実習園事前訪問の確認、課題提出 他

第3回 2022年7月21日（木）14：50-16：20

実習に関する情報交換、今後の予定（変更を含む）の確認 他

第4回 2022年9月28日（水）14：05-15：35

実習園事前訪問

第5回 2022年9月29日（木）13：10-14：40

実習に関する最終確認、事後課題の確認 他

第6回 2022年11月24日（木）13：10-14：40

事後指導、「事後考察課題」の確認 他

第7回 2022年12月1日（木）13：10-14：40

実習の振り返りに関するグループワーク 他

第8回 2022年12月8日（木）13：10-14：40

実習の振り返りに関する討議（報告会）

第9回 2022年12月15日（木）13：10-14：40

実習の振り返り報告を終えての振り返り、教育実習Ⅱの総括一次の実習に向けて—

*その他、個別での指導は適宜実施した。

1-2 実習期間および実習協力園

2022年度からかえで幼稚園を加え、実習園数は次の7園になった。この7園に42名の学生を2期間に分けて配置した。

学校法人龍花学園三入幼稚園，学校法人菜の花学園菜の花幼稚園，学校法人広島府中教会学園こばと幼稚園，学校法人微妙学園みみょう幼稚園，学校法人武田学園広島文教大学附属幼稚園，学校法人有明学園かえで幼稚園

1期 2022年10月11日（火）開始，10月24日（月）終了。（10日間）

2期 2022年10月31日（月）開始，11月14日（月）終了。（10日間）

ただし，各園の事情により，若干の変更があった

なお，実習期間中には体調不良を理由とする欠席者や早退者，遅刻者がいた。だが，いずれも実習園の取り計らいにより，所定の時間を満たす実習をすべての学生が執り行うことができた。改めて，実習協力各園，本学教職センターのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

2. 2022年度における指導・運営上の特徴

2-1 事前・事後指導における非対面（オンライン）授業形式の柔軟な活用

2022年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策を適宜講じながら事前・事後指導を行った。具体的には，感染あるいは濃厚接触等を理由に，登学しての受講が困難な学生に対して，非対面形式（オンライン）での受講体制を整えた。

本科目は，事前・事後指導のみならず実習期間中も，学生のグループ（共同）活動が主たる学修になる。そのため欠席者が出た場合，グループでの活動に滞りが生じ，学修の遅れが懸念される。特に，欠席した学生にその傾向は顕著にみられる。そこで，非対面形式（オンライン）を活用し，授業当日に話し合い活動を行うことが可能になる。あるいは，授業当日に参加できなくても，回復次第，授業録画を視聴し，在宅で課題に取り組むことができる。このように，登学できない場合でも，非対面形式を用いて在宅で学びを進めることが可能になった。

2-2 使用テキストの改訂

事前・事後指導は，本科目および教育実習Ⅲのテキストを用いて，実習の目的・意義，実施内容，職務上の倫理観等について解説・演習を行った。とりわけ，感染症対策等に関する指導事項について状況に応じた対応を行うことを重視した。

さらに，後述する保育実習との系統性を図るため，指導内容上の文言や内容，授業シートに加え，「指導計画案」「健康管理カード」「行動記録表」を新たに改訂した。

2-3 保育実習との連携

先述の通り，2021年度から本科目が第6セメスタでの開講となったため，保育実習Ⅰ（第5セメスタ）が先に実施されることになった。本科目の事前指導が保育実習指導ⅠB（第5セメスタ）と同時期に実施されることを活用し，様々な点でこれまで以上に本科目と保育実習が連携し，ある種一つの目的（保育者養成）のもとで，体系的な指導体制の構築に着手した。

具体的には，実習評価であり，可能な限り評価項目を統一した。これにより，学修課題，指示事項や名称も統一することができた。従来は，同じ内容であったとしても，それぞれの授業科目で異なる名称を用いて事前学修がなされていたため，学生は本科目と保育実習Ⅰのそれぞれの指導事項を各自で整理し理解していた。とはいえ，内容によっては区別しにくいとの声が寄せられていた。今年度から同一形式，同一事項で指導内容が整理されたため，学生の円滑な理解につながった。

Ⅲ 成果と授業改善にむけた課題

本年度も本科目のすべての計画を完遂できたことが大きな成果といえる。また，事前・事後指導を通じて，学生により一層グループ活動の機会を2021年度よりもさらに増やし，自主的自律的な活動を促した。その成果は最終の振り返りシートからも確認できる。

さらなる課題として，教育学科カリキュラムの改訂に基づく幼児教育コースにおける実習科目群で学びの体系化がある。2022年度までに保育実習や教育実習Ⅲ（4年次科目：第7セメスタ）や教職実践演習（4年次科目：第8セメスタ）に関して連携体制を構築しつつある。こうした体系化が構築されることによって，個々の科目での授業において，受講学生らはあらゆる実習科目において学修を円滑に進めることができるだろう。2022年度時点では途上段階であるため，次年度に向けた課題としたい。

i 田中崇教・杉山浩之・平山祐樹（2022）『教育実習のてびき・記録（幼稚園教諭一種免許状）』広島文教大学